



第73回 日本PTA全国研究大会
第81回日本PTA東海北陸ブロック研究大会

2025年分科会8月22日
全体会8月23日

石川県大会

参加：四日市市PTA連絡協議会



分科会

第1分科会 **家庭教育**
石川県小松市團十郎芸術劇場うらら

第2分科会 **学校教育**
加賀市文化会館

第3分科会 **地域連携**
七尾市文化ホール

第4分科会 **人権教育**
白山市松任文化会館 ピーノ

第5分科会 **広報活動**
金沢歌劇座

第6分科会 **今日的課題**
SDGsウィルビーイング
野々市市文化会館 フォルテ

特別第1分科会 **今日的課題**
日本PTA担当
石川県立音楽堂 邦楽ホール

特別第2分科会 **今日的課題**
文部科学省協力
石川県立音楽堂 コンサートホール

第4分科会

講師：高井ゆと里さん(HPにて)



白山市松任



断ち切れ！思い込み

▶ 第4分科会〈人権教育〉

「多様性は『ある』けど『ない』ジェンダー平等の子どもたち」

講師：高井ゆと里氏

群馬大学情報学部准教授



講演は非常に得るものが多く、特に心に残ったことは、社会構造が偏見をもたらしているということ。その中で「女の子だからこう」「男の子だからこう」と、昔からこうあるべきとされてきた社会であったため、高井さんの表現で「直列つなぎ」の思考（性別により決められた価値観がいくつも連鎖的に続いていくこと）という決めつけられた流れが出来てしまっている。それを断ち切ることで、社会構造を変えていかなくては差別をなくせないと話されました。それには「直列つなぎ」に疑問を持つことだそうです。そして、発信し行動していくことだと伝えていました。

講演の後、元白山市PTA連合会会長の山本恵史さんコーディネーターのもと、高井さんの他、助産師の植田幸代さん、青森レインボーパレード実行委員の松本ハルさん、特定非営利活動法人ASTA共同代表の松岡成子さんとパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは「相談しやすい大人がいてほしい」と言われた松本さんの話から「どういう人が相談しやすいのか？」と話は展開していきました。例えば学校で「男子は机を運び、女子は雑巾を」と言う先生には、絶対相談できないですね。と。

親子でこのような話を普段から出来る家庭でありたいと思うと同時に、改めて気づくための感覚、知識の必要性を感じた1日でした。

多くにとって家庭は最も身近なコミュニティです。社会を変えるまでにはいかなくても、ひとつの家庭が気づきを得れば、またひとつまたひとつと社会の輪になって、少しでも差別のない社会へと変えていけるのではないのでしょうか。

記/佐藤美重

第5分科会



金沢市下本多町



▶第5分科会〈広報活動〉

「学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動」

～一緒に新しいカギをてにいれよう～

講演：的場茂樹氏 金沢学院大学准教授

大谷イビサ氏

(株) 角川アスキー総合研究所TECH.ASCII.jp編集長

「学校が楽しくなる！仲間が集まる広報活動」というテーマに惹かれ参加しました。会場では、学校の先生、PTA会長、メディア勤務の保護者による発表とディスカッションを、金沢の保護者が演じる3本の寸劇を交えて楽しく聞きました。

学校現場の「忙しい」という問題を、改善する役割をPTAが担っている。また、子どもの成長には、地域と学校との連携、保護者の協力が不可欠。これには、学校長と一緒にPTAが誰でも参加できる（子どもが参加できて父親も参加しやすくて先生と保護者の接点が増えるような）お得な行事を開催することで、信頼できる協力体制をつくるとよい。

PTA不要論は、ネガティブな論調の方が読者に受けるため記事になりやすい、というメディアの宿命からくるもの。メディアに流されてはいけない。

PTA役員のなり手がいないことへの改善方法の一つは、事情を知った方が役員に立候補すること。例えば、市のPTA（以下、市P連）の会議に出席している学校や園のPTA会長をして「市P連の役員をしても良い。」と思う方が翌年立候補する。ということを繰り返す。やれない人、やっちゃいけない人、やりたくない人がPTA役員をしなくてもいい仕組み。やりたい人、出来る人が集まる仕組み。ただし、中心になる方、この方を支える方が、前向きで他者に配慮する方でないとなりたたい。

つなげていく広報へ

子どもと一緒に支えるという仲間が出来ることで、心理的安全性が高いチームになる。大人が楽しく活動することで、子どももその活動を観て楽しくなる。

推薦方式でも良い方法がある。今のその役職の者が、次の同じ役職になる者を推薦してプレゼンする。「今のこの課題を解決する必要がある、そのために適任なのはこの方です。」「この役職はこんな方が必要でこの方が適任です。」と良い所を紹介して役員になってもらう。ひとりが1年で出来る事は限られている。同じ思いを引継いでいくことが必要。

広報の形式としては、出来る部分はデジタル化をしながらも、オフラインファーストが重要。デジタル化は総論賛成、各論引き受け手が少ない。新しいデジタルツールも必要だが、足を運んで会って話をすることも非常に大事。口コミを侮どってはいけない。デジタルになるだけでは交流が生まれない。紙の良い面があるので、それぞれの長所を生かして選ぶ。

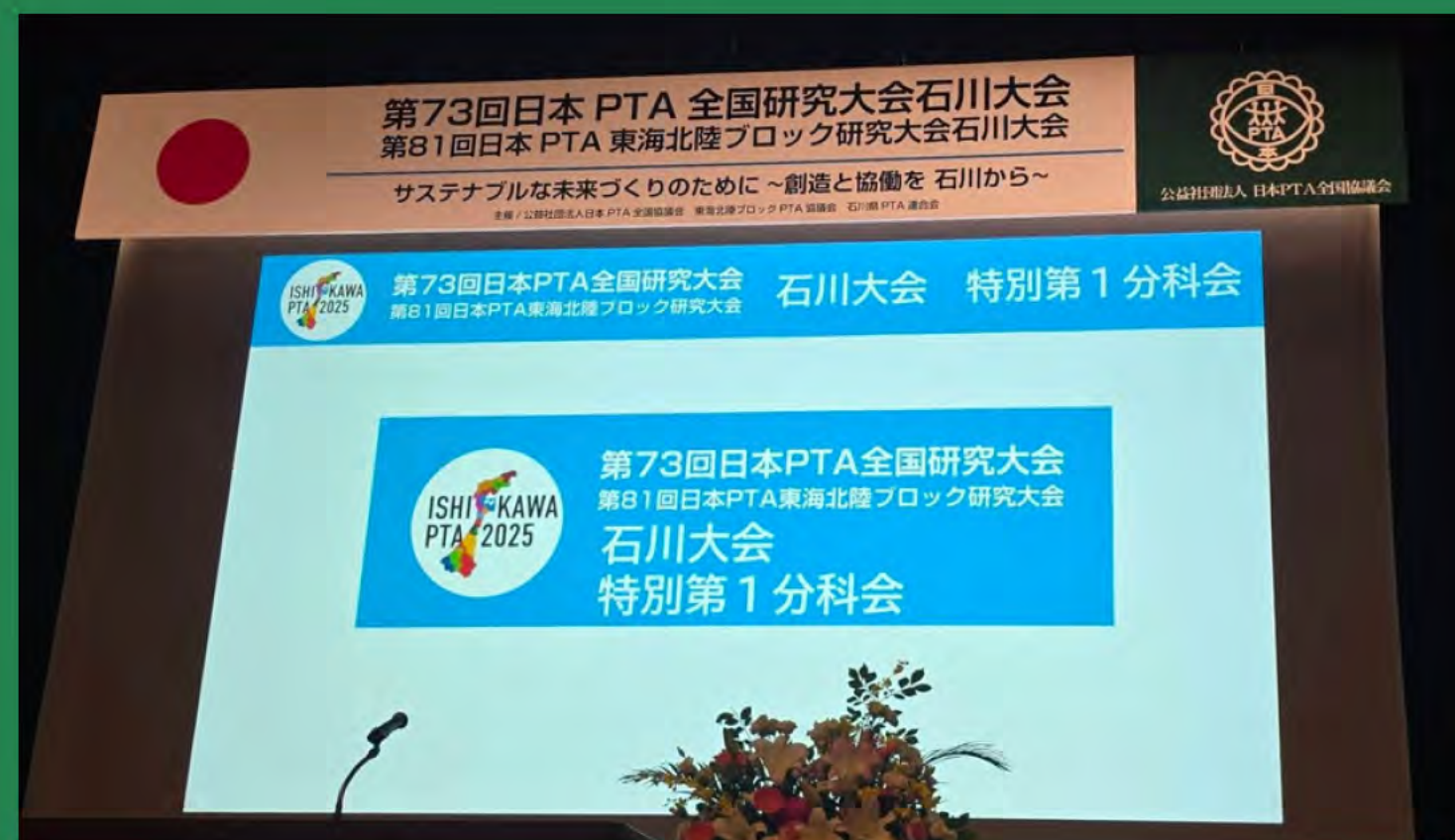
PTAは2月、3月が大切。この時期に「PTAとは何なのですか？」「PTAは今年何をするのですか？」に答える準備をし、次の広報へつなげていくことが大切。

といった話を聞いて、PTAの意義の理解につながる様々なヒントを得ることが出来ました。

記/岸田諭祀

特別第1分科会

特別第1分科会 今日的課題（日本PTA担当）
サステナブルなPTA活動を構築するために
今、改めて、PTAの存在意義を問う
講師 元日本PTA全国協議会会長 東川 勝哉氏



金沢市昭和町



持続可能を保つために

▶ 特別第1分科会

〈今日的課題 日本PTA担当〉

「サステナブルなPTA活動を構築するために」

～今、改めて、PTAの存在意識を問う～

講演：東川勝哉さん 元日本PTA全国協議会会長

学童の役員から単P(学校PTA)の副会長となり様々な活動をされてきた東川氏は、ご自身の経験から、PTA加入のメリットの一つとして「きちんとした大人の姿を見せなくてはならないと思うようになり、様々な場面で自分を律することができる様になった」などと話されていました。

PTAのあゆみに触れ、戦後『教師と父母の会の結成手引書』が全国に通知され、こども達の健全な成長のために、家庭・学校・社会が協力し、教育環境の改善を目指すものという認識が周知されていったこと、学校給食の制度化や教科書無償配布〈年間474億円〉、タブレット配布〈約4600億円〉などの現状当たり前になっていることも、PTAの果たしてきた役割であること、その当たり前がキープされていることこそサステナブルであるとも語られていました。

また、全国的なネットワークがあるため、災害時においても必要な教育を止めないこと、募金など手厚いサポートが可能であることなどの利点も述べられました。

やはり強調されていたのは、こどもの教育に対して、家庭・学校・社会が責任を分け合うということです。それぞれが当事者意識を持ち、互いを批判せず理解を深め、学校が掲げる目標を共有することです。

私がとても印象に残っている言葉は「PTA活動はボランティアではない」というものです。ボランティアとは、自分に利害関係がないところで自らの意思により行うものです。PTA活動のように自分のこどもが通っている学校で先生と共にこども達の学ぶ環境をより良いものにしていくという活動は、保護者にとって当事者そのものだからです。

後半には、パネルディスカッションが行われ、パネリスト3名がコーディネーターの質問や議題について答えました。13年に渡りPTA会長を経験された南野氏は、コロナ禍に地域と連携し、コロナ差別防止のポスターを100枚掲示した活動を話されました。その他、能登半島地震での経験からPTAの重要性についてや、課題を含め組織としての持続可能性についてなども言及されました。保護者、当事者の1人として、PTA活動の本質について考えさせられる時間となりました。

PTAを取り巻く状況は日々変化し、従来の活動の運営が難しくなっているのは事実です。共働き世帯が増え、少子化による会員の減少で特定の保護者へ負担が増える状況もあるかもしれません。活動に参加することを負担に感じている保護者も多いと思います。その様な状況の中でも、それを持続していくためには、強制でなく柔軟な参加形態の導入など、内容の見直しは必須だと思います。

記/中野望美

1. PTAの意義とメリット

- ・PTAへの参加は「地域とつながる」第一歩。「模範生徒を育てよう」と思ったとき、まず親がモデルになることが重要」。PTAチャンネルを活かすことで、保護者・学校・地域が協働できる。
- ・PTAに関わることになったことで、大人がちゃんとした態度をとることを意識した

2. PTAの歩み

心理学的な想像。犬といえば？→こうだよねが心象的な観念 バイアスがある
PTAといえばこれという心理的な印象がある
戦後の新日本建設の教育方針から
子供たちがただしくすこやかにそだっていくためには、家庭と学校と社会がその教育の
責任を分け合い、力を合わせて子供たちの幸福のために努力することが必要。
実情は
子供たちに影響を与える学校家庭社会という場所
今までもあったが、本当にこどもたちの為の物がなかった。
教育機関との連携や、親の成長などの観点から、先生と父母が平等な立場に立った組織が必要となった

3. PTAを取り巻く現状と課題

昭和23年設立、全国70%の小中学校に存在。 会員の高齢化・役員のなり手不足が課題。「PTA＝義務」という認識が根強いが、自発性・任意性を尊重することが求められる。 PTA活動の持続可能性を考える必要あり。

4. 活動の4つのワーク

家庭ワーク 家事・育児・介護など
有給ワーク 仕事・バイト・お小遣い
学習ワーク 学校・行事
ギフトワーク ボランティア・NPOなど→PTA＝4つの領域をつなぐハブ

・家庭教育や社会教育とは
社会教育法により、PTAが社会的組織となった。
社会教育及び家庭教育の充実の目的。
広く社会において行われる組織的な教育を社会教育や生涯教育と呼ぶ
社会教育関係団体がPTAのもともとの認識。
成人教育計画でうまくいっている点2点が
父母と先生の会（PTA）とユネスコ関係団体
他社理解を進めていくことによって、多様化や平和の砦を築いていける
・日本PTA全国協議会結成
第一回開催は三重県宇治山田市
議題は家庭教育についての話題に触れている

・PTAの目的
児童生徒の健全育成のために大人が学ぶ組織
教育は学校だけがするものとか受け持ちの先生が全責任を持つべきものであるであるとが、誤った考えは捨てよう。
一人一人が高い知性と深い愛情を持たない限り、いくら学校の制度を変えても変わらない。→PTAの歌より

・当時の日本PTAの活動
学校給食の制度化や教科書の無料配布や学校保健の実施など
教科書無料配布が当たり前になっている背景は？
設立当時から続いている活動の恩恵（サステナブル）

・教師の働き方改革より
保護者・PTAや地域の方々にお願いをしたい。
教師たちの熱意に頼りすぎているのではないか。
保護者・PTAや地域の協力が欠かせない。

・教育基本法
家庭・学校・地域の役割
教育は人格の完成を目指し、心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。
第一義的責任を有する 父母その他の保護者

5. 今後に向けての視点

PTA の目指すものは「地域と学校、そして家庭をつなぐ接点をつくること」

パネルディスカッション テーマ：「PTA活動の意義と未来」 【論点】

①PTA 活動の意義とは過去・現在・未来

②本音で語る「PTAの必要性和課題」

③持続可能なPTA組織のあり方 【意見（要約）】 - コロナ禍でのPTA活動は縮小傾向 → ポスター掲示やオンライン活用で工夫。 - PTA 活動の形式化により「やらされ感」が強まっている。 - PTA＝「親の学びの場」でもあり、子どもLINE などのICT 活用で効率化 → 参加者満足度向上へ。 - 子どもにとって大人の姿を見せる場がPTA。 - ただし「無理に全員参加させるのではなく、関わり方の選択肢を広げる」ことが大切

・PTAが期待されていること

家庭教育

家庭と学校・地域をつなぐこと

・受け取り方は変えられる？

高野の午睡（こうやのひるね）

当事者意識 行動の動機付け やっていく動機付けをいかにできるか

レンガ職人の話

・アイディアの作り方

環境と経験が違う人と会話をする

・学習指導要領より

すべての大人に期待される役割

児童生徒が成長していくために

こどもの成長に関して地域・学校・家庭で責任を分け合う

6. まとめ

PTA は「義務」ではなく「自発的な地域参加の仕組み」であるべき。 - 家庭・学校・地域を結ぶハブとして、役割は依然として重要。 - ICT 活用や役割の柔軟化により、持続可能な活動モデルを構築する必要がある。 - 「子どもの育ちに大人がどう関わるか」こそが、PTA活動の本質的な問い。

▶サステナブル…持続可能な
環境社会、経済の各側面で将来に渡って持続可能な
状態を保つこと

特別第2分科会



金沢市昭和町(メイン会場)

防災の当たり前を考え直す

▶ 特別第2分科会

〈今日的課題 文部科学省協力〉

「学校教育における防災の学び」

～令和6年能登半島地震とその後の豪雨災害から

得られた教訓をどう生かしていくのか～

講演：文部科学省防災教育担当者

講演では、学校教育における当たり前の教え『地震が来たら机の下に潜りましょう』ここを根底から覆すような動画も見ることができ、震度6強、7という地震の下では、学校の机などがどのように動くのか？そこを考えずに、机の下に潜ることを教えている事。災害時の備えとして、子どもたちも必要な物と捉えている防災頭巾についても、地震に対しての効果には、何の根拠もなく、戦争で火の粉を防ぐ観点から導入されたものが、その時代から単に残っているだけのもの。という内容が強く印象に残りました。

何事も根拠なく、昔からの物を残すのではなく、それが何故か？子どもたちに教えるためには、大人が考えて伝えていく。スクラップする事もふまえ、古い物はしっかりアップデートしていく事が重要。

行政指導や学校教育において、今まで効果的だと思い込んで伝えてきた事が、災害時に役には立たず、実際に起こる事と大きく解離している事を教えられました。

東日本大震災のエピソードとして有名な、釜石の軌跡についても話があり。

学校教育でよくある『おはしもち』

- ①押さない
- ②走らない
- ③喋らない
- ④戻らない
- ⑤近づかない

についても、子どもたちが独自に判断し大声を出して、走って逃げた学校は全員が助かった話もありました。

子どもたちに伝える側の大人が、間違った理解をしている現状からすると素直な子どもたちほど

『大人の教えを守ったから、助からない』

そんな悲しい事は、絶対に避けたいと思いました。

自分が助かるために、人を助けるために何を選択するのか、今後色々な場面で活かしていければと思います。

記/鈴木恵介





石川県立音楽堂コンサートホール メイン会場にて
分科会会場インターネット回線中継

▶ 全体会記念講演

石川県副知事 浅野大介氏

「能登の創造的復興と学びの環境」

経済産業省だった浅野氏が、どのように文科省とともにGIGAスクール構想や「未来の教室」など学校のデジタル環境整備について推進してきたか、とても興味深いお話でした。一生自分で学び続ける子を育てるための学びのSTEAMについてのお話は実際、教育現場に活かされたら学ぶ事がとても楽しくなるだろうと感じました。能登の復興にむけた「石川県創造的復興プラン」のロールモデルもまた学びの先にある地域の維持や発展に繋がる面白いもので、その中の1つ輪島三井で行われている自伐型林業も単なる復興だけでなく今後少子化が進む地域の持続的な取り組みになっており、子どもたちが未来を切り開く力を持っている事を感じられました。

今回の大会を通し、私たちPTAは子どもたちや組織を、単に「守る」という事から「創造する」視点を持ち、学び続け、子どもたちが安心して挑戦できる環境を互いに協力して築いていきたいと感じました。そして、学んだ事をPTA会員に効果的に伝えていく事も大切だと感じました。

記/徳永里美

未来を切り開く力



編集後記

ここまで読んでいただき、ありがとうございました。

四日市市PTA連絡協議会、一年目の私なのですが、PTAの全国大会やブロック大会があるなんて全く知りませんでした。ですから、この記事で是非、皆さんにも知ってもらいたく編集に携わらせてもらいました。

大多数の参加者は県から出してもらおうバスで現地へ向かっていきましたが、私は一人で運転して行きました。後で温泉にでも行こうと思っている不届き者です。「観光の気持ちで参加するのは違うかな？」と思いながらも、半分そんな気持ちを持ちながら現地入りしました。

ところが実際に参加すると、被災しながらも最大限の思いを詰め込んだのだろうということが伝わってくる大会に、そんな気持ちはどこかに行っていました。会場の雰囲気、現場スタッフの連帯感、各分科会の講演内容、何より提案者の皆さんの教育にかける情熱に直面し、貴重な時間になったと感じました。

分科会についての記事、レポートを書いてもらえる人をお願いし、その原稿を編集したのですが、各会場とも得るものが多く、皆さん書ききれなかったり、どうまとめようかと苦労したりと、そんな思いが伝わってきました。

半分観光気分で行ったものの、人生を豊かにするための濃い二日間になっていました。それを、子どもたちに伝えるべく、自分の生き方として見せていけたらいいなと思います。

参加された皆さん、記事を書いてくれた皆さん、ありがとう！お疲れ様でした！

記/佐藤美重



来年度ブロック研究大会PR サテライト会場にて



2026年度
東海北陸ブロック研究大会
三重県大会

10/30～31

COMING SOON

2026年度
日本PTA全国研究大会 奈良県大会 8/23～24